

平成23年6月9日

春日井市立高森台中学校「ふれあい教育セミナー講演会」

思春期の子どもとのコミュニケーション

講師：千田 伸子

●思春期とは…『理想我』へ向かう、自己確率の時代

一般に、小学校5～6年生から高校生くらいまでの時期をいう。

思春期の子供が感じる親への不満

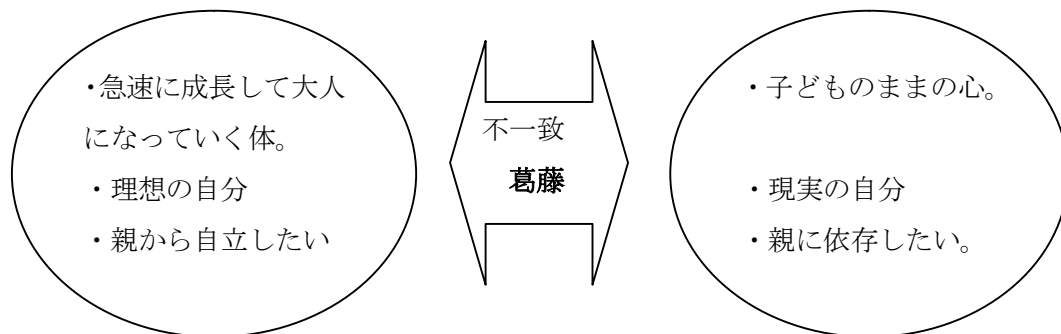
- ①親の過剰干渉
- ②親の考えを押し付ける
- ③自分を本当に理解しようとしな
- ④考え方が古く頭が固い
- ⑤子ども扱いする
- ⑥勉強のことばかり言う
- ⑦交友関係にまで口出しする
- ⑧親は自分が言うことと、やることが一致していない
→親への反抗（否定的反抗・批判的反抗）

仮面性（心の二重構造）に注意！

- ・認めて貰いたいけれど、心の底までは覗かれない。
- ・本音と建前を使い分ける→仮面の中の真実を見抜く心のゆとりが必要。
- ・「問題行動」は、自尊心を傷つけられ、人格を否定された子どもの心の叫び。

Q：自分っていったい何者なんだろう？自分らしさって何？

自分はどんな風に生きていったらいいんだろう？（迷い）



- ・妙に自意識過剰なところがあるかと思えば、自己嫌悪を抱くこともある。
対人関係に距離をとろうとする。
- ・競争や勝ち負けに強いこだわりを持って、負けるとキレる子もいる。
- ・反社会的な行動をとることで生き生きとした実感が湧くと感じる子もいる。

人格を尊重する

勉強のことで自己嫌悪に陥っている子→×『やればできる!』(追い詰める)

◎勉強以外の様々な夢や価値観を育てる。

◎親御が『お父さんもそうだったよ』などと、自分の体験談を話す。

全否定をしない→「何もできないくせに」「お前は能力がない」など

『心理的離乳』の時期

親があまりにも大きく君臨し過ぎると、子供の心は成長できない。

- ・過度な干渉を嫌うので「～しなさい!」など指示命令はしない。
- ・思春期の子どもたちは、親に「認めて貰う」ことを望んでいる。
- ・親が『抱え込む』『守られている』⇒親に『信頼され』『頼りにされている』
言い分を十分に聴いて、感情の奥の本心を認めること。

高校生期…思考力・推理力は大人並みだが、経験が不足している。

親子のトラブル 高校生の主張は「理想実現」⇔親の主張は「現実的な経験」
自分と内的世界を共有できる友達の存在が大きくなる。

高校生の反抗現象…感情的にならず、反抗も精神的成長と認め、

自尊心を傷つけないように話しあう。

むやみに親の権威や権力で抑えつけない。

感情論理 自尊心が強く自我の強い高校生は、理論の裏に強い感情が働く。

自分の意見に反対されると、反対した人に感情的になる。

- ・負け惜しみが強いので協調性に欠ける。
- ・嫌いな点は真っ向から反対する。



感情と論理を分けて考えさせる

- ①その子なりの論理を聴く
- ②人格を尊重し、その論理に敬意を表す
- ③言わんとするその子の立場を理解し、その必然性を認める
- ④寂しい気持ち、不安な気持ち、迷いなどを温かく支える。

本能的なものを満たしてやると感情と論理が分離し、話し合いが可能になる。

感情的にならず、自尊心を傷つけないように子どもと話しあい、理解すること。